

## 羽毛を未来へつなぐ——好日山荘池袋西口店に聞く回収の現場 と想い



「持続可能な社会へ羽ばた毛！プロジェクト」では、これからの活動をよりよいものにするために、まずは「現場で実際に動いている人の声を聞きたい」という想いがありました。そこで私たち学生から、羽毛の回収に取り組まれている株式会社好日山荘さんをお願いし、今回のインタビューが実現しました。普段はなかなか知ることのできないお仕事の工夫や想い、そして持続可能な社会づくりに向けたリアルな視点を伺うことができました。その気づきや学びを、ここから皆さんにもお届けしたいと思います。

### 〈企業インタビュー〉

株式会社好日山荘 池袋西口店

登山・アウトドア用品の専門店「好日山荘」は、自然を愛する多くの登山者に支持されるだけでなく、環境保全活動にも積極的に取り組まれています。その一環として参加しているのが、役目を終えた羽毛製品を回収し、再び資源として活用する「Green Down Project」です。今回は、全国の店舗の中でも特に羽毛の回収量が多い池袋西口店を訪ね、現場での取り組みやリサイクルに込めた想いについてお話を伺いました。

## 〈目次〉

1. 限りあるダウンを次の 100 年へ——好日山荘が羽毛回収に取り組む理由
2. 広がる羽毛回収——池袋西口店に集まる人と羽毛のリアル
3. 羽毛回収が見つないだ出会い——取り組みを通して感じた手応え
4. 知ることが、次につながる——ダウンをめぐる小さな気づき

### 1. 限りあるダウンを次の 100 年へ——好日山荘が羽毛回収に取り組む理由

—— まず、御社がこの羽毛回収の取り組みを始めたきっかけについて教えてください。

この取り組みは、弊社が創業 95 周年を迎えた際に、100 周年に向けた取り組みの 1 つとして Green Down Project に参加して始まりました。ダウンは登山のときには欠かせない素材で、軽くて暖かいという大きな特徴があります。ただ、今後もダウン製品を使い続けていくためには、ダウンが限りある資源だということをきちんと認識しなければならないと思っています。回収して、また使える形にする。そうした循環をつくっていくことが、環境にとっても大事な取り組みの一つだと考えています。ダウンはおよそ 100 年使用することができる、まさにサステナビリティな資源。ダウンアイテムの回収を好日山荘の各店舗にて行い、限りある資源を次の世代へと残します。

### 2. 広がる羽毛回収——池袋西口店に集まる人と羽毛のリアル

—— 池袋西口店に実際に持ち込まれるお客様はどのような方が多いですか？

回収に持ってこられる方は、幅広い年代の方がいらっしゃいますが、特に 50～60 代の方が多い印象です。回収されるものとして一番多いのは羽毛ふとんです。そのほかにダウンジャケットや寝袋などもあります。また、持ってこられる方は、圧倒的に女性の方が多いです。

—— 持ち込まれるお客様は普段からお店を利用されている方が多いですか？

回収に来られる方の中には、普段からお店を利用してくださっているお客様ではない方もおられます。羽毛回収をきっかけに、このお店を知って来てくださる方も多くいらっしゃいます。持ち込む前に、電話で確認してくださる方も多いです。「これ回収できますか？」とか、「羽毛ふとんなのですが大丈夫ですか？」といった問い合わせを事前にいただくことがよくあります。取り組みを続ける中で、回収量はだんだん増えてきているように感じています。皆さんの意識が、少しずつ高くなってきているのであれば嬉しいです。時期でいうと、夏の方がよく回収できているイメージがあります。衣替えのタイミングで持ってきてくださる方が多いのかなと思います。

—— 池袋西口店ではどのくらいの羽毛が集まっているのでしょうか。

他の店舗と比較しても、この店舗は本当に回収が多いと感じています。他の店舗にも勤め

たことがあるのですが、この店舗は本当に回収が多いと感じています。週に2〜3回くらいのペースで回収できていることもあります。回収業務自体の負担は、特にありません。ルールとしては、ダウンが50%以上入っていて、それが確認できるラベルが付いているものを受け付けています。ラベルが見つらい場合は説明をしたり、条件に合わない場合は回収をお断りしたりすることもあります。回収された羽毛は、ある程度量がたまったらまとめて郵送しています。回収ボックスがいっぱいになったら、中身を潰して梱包し、だいたい段ボール2箱分くらいになります。



▲池袋西口店の回収ボックス。池袋西口店は好日山荘さんの店舗のなかでも特に羽毛の回収量が多いそうです。

### 3. 羽毛回収がつないだ出会い——取り組みを通して感じた手応え

—— 羽毛回収を行っていて「よかった」と感じるのはどんなことですか？

1番よかったなと思うのは、羽毛回収をきっかけにお店を知ってもらえること、見てもらえることです。『回収だけで来ました』という方でも、店内を見てくださったり、『こういう取り組みをやっているんだ』と知ってもらえたりするのは、すごくいいなと思います。

### 4. 知ることが、次につながる——ダウンをめぐる小さな気づき

—— 学生や皆さんにどんなことを伝えたいですか？

まず皆さんに知ってほしいのは、ダウンは捨てるものではなく、また使える資源だということです。羽毛ふとんやほかのダウン製品も、回収して洗浄し、またリサイクルダウンと

して使われていきます。まずはラベルを見て、「これ回収できるんだ」と気づいてもらえるだけでも違うと思います。学生の皆さんには、そうした仕組みや背景を、分かりやすく伝えてもらえたらいいなと思っています。また、「なんでダウンが暖かいのか」「なんで回収が必要なのか」「ダックとゲースって何が違うのか」など、基本的なことでも意外と知られていないことが多いのが羽毛の世界です。そういった部分も SNS やイベントなどを通して、身近な言葉で伝えてもらえると嬉しいです。

#### 〈取材後記〉

好日山荘池袋西口店さんでインタビューをさせていただき、羽毛回収の取り組みやその背景にある想いについて詳しく伺うことができ、とても学びの多い時間となりました。

特に印象に残ったのは、「なぜ羽毛（ダウン）は暖かいのか」「なぜ羽毛（ダウン）の回収が必要なのか」といった、羽毛そのものへの理解を深めてほしいという想いです。素材がどこから来て、使い終わったあとにどうなるのかを知ること、モノをより大切に使い、リサイクルしようという行動につながるのではないかと感じました。また、回収されるものの多くが羽毛ふとんであることや、持ち込まれる方の多くが普段のお店のお客様ではないという点も印象的でした。羽毛リサイクルに関心を持つ人が、想像以上に多くいることを実感しました。

お店側と羽毛製品を持ち込む方の双方が、「環境に優しいことを気軽に実践できる」関係が築かれていると感じています。今回のインタビューで得た学びを大切にしながら、今後も羽毛の現状やリサイクルの重要性を、より多くの人に伝えていけるよう、このプロジェクトに取り組んでいきたいと思っています。

#### 〈学生インタビュー担当〉

成城大学 3 年生 一之瀬友香

早稲田大学 3 年生 福原陸斗